

かごしまブランド

県内各地から

KAGOSHIMA BRAND

ばれいしよ

長島町

世間は大型連休でうきうきの頃、長島町では大忙し。
なぜなら、赤土に埋まるばれいしよが、
早く地面に出してちょうだいとさうさうしているから。

長島の景



くろのせとおおはし
黒之瀬戸大橋／阿久根市と長島町を結ぶ全長502メートルのトラス橋で、昭和49年に開通しました。黒之瀬戸は日本三大急流に数えられる海峡です。古くは万葉集にも歌われた名勝で、瀬戸港の上の丘には長田王の万葉歌碑が建てられています。



あがしおみ
上り浜・汐見の段々畑／黒之瀬戸大橋を渡り、国道389号線を指江方面へしばらく走り峠を越えた途端、目の覚めるような青い海原と海岸から山頂に向い築き上げられた段々畑が見えてきます。自然の美しさと長年にわたる先人たちの労苦が生み出したやさしい風景です。



あひお
針尾公園／今から四百数十年前の大永年間にとりでが築かれた跡地。展望台から北を望めば、雲仙天草国立公園が視界いっぱいに広がり、眼下には「薩摩松島」が望めます。また、伊唐大橋を眺めるにも最適な場所であり、天気の良い日には、雲仙普賢岳を見ることができます。

●問い合わせ先

長島町企画財政課 0996(86)1111

黒之瀬戸大橋を渡ると、目前には段々畑が広がっていた。さんさんと降り注ぐ太陽の光を、思いつきり、欲張って浴びているように見える。長島の土は赤い。日光を浴びすぎて日焼けしたからではないかと思ってしまうくらいだ。

その赤い土の中で育まれ、県の生産量の4分の1を占める農産物がある。京浜・中京地区を中心に出荷されている「赤土ばれいしょ」だ。

「赤い土の中で育ちますが、色白できめ細かいんですよ」と語るのはばれいしょ栽培農家の磯崎 忠幸さん。

長島町ではばれいしょが栽培されるようになったのは、30年ほど前。じゃ

がいも菓子メーカーが長島町特有の赤土に目を付け、試験的にばれいしょを作ってみたのが始まり。加工用として栽培したところ、質もよく味もよいため、青果用として作られるようになったそう。

「手がかからないので、私もまた現役でやっていますよ。中腰の姿勢はきつけどん、まだまだがんばらんと。これからも、土づくりを大切に、安心して食べてもらえるものを作っていかなんと思っています」。御年82歳の忠幸さんは笑顔で語った。

忠幸さんの妻イチエさんの話では、サラダで食べるとそのおいしさが分かるとのこと。掘りたてのばれいしょ

をラップにくるみ、電子レンジにかけ、マヨネーズを少し付けて食べてみた。箸で割ると、ほろりと実が崩れ、ほくほく感が見た目からも伝わってくる。口にすると、ふわりと広がる。一方、いい具合に口の中にまとわりつき、粘り気も感じられる。肝心の味であるが、見た目の美しさに似た、品のよいうまさがある。そして甘みも感じられる。マヨネーズとの相性も抜群であったが、このばれいしょを、肉じゃがに、コロツケに、グラタンに、粉ふき芋に……。想像するだけで、よだれが出てくる。

①第5回いぶすきフラフェスティバル [指宿市] 5月24日(土)~25日(日)



指宿に一足早い夏の到来を告げるイベント。指宿市民会館を主会場に全国から幅広い年代のフラダンス愛好家が集い、南国情緒漂うハワイアン音楽にのって、優雅な舞を披露する。競技会のほか、街角で踊りを披露する「街角フラ」や誰でも自由に踊ることができる「アロハカクテルパーティー」などが行われる。



県内各地から

イベント情報

デイゴ(瀬戸内町)

85本の巨木並木が5~6月にかけて鮮やかな真紅の花を咲かせる。このうち21本は国の巨木樹に登録されており、樹齢は300年。諸鈍地区海岸の最も近い場所にある。

問い合わせ先 いぶすきアロハのまちづくり実行委員会 0993(22)3252

垂水市制施行50周年記念事業

②第10回瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクール [垂水市] 6月7日(土)



垂水市は吹奏楽の原点である行進曲の父で、作曲家瀬戸口藤吉の故郷。郷土の先人として平成10年度に顕彰され、平成11年度からこのコンクールが実施されている。行進曲の情報発信地となるように、市全体で大いに盛り上げている。本年度は市制施行50周年記念事業と併せ、県内外からの参加によるコンクールを実施する。

問い合わせ先 垂水市教育委員会社会教育課 0994(32)0224

かごしまブランドピーマンの収穫体験と試食ができる

③東串良ピーマン狩り&農業祭 [東串良町] 6月1日(日)



毎年6月に開催され、ビニールハウスが無料開放される。多くの家族連れなどが濃い緑や真っ赤に色づいたピーマンを収穫し、楽しむ。また、町民運動場に設けられた特設ステージでは和太鼓演奏やピーマン・きゅうりのつかみ取り大会が行われ、ステージ周辺では新鮮野菜の即売会やピーマン、きゅうりのお料理試食宣伝コーナーが開催される。

問い合わせ先 JA東串良支所 0994(63)2525

田植えから稲刈りまで

⑤日本棚田百選 第12回湧水町棚田産直交流事業 [湧水町] 6月15日(日)



湧水町幸田地区に江戸時代中期に石積みされ、日本棚田百選にも選ばれている棚田がある。昔ながらの原風景が残る棚田で自分たちで田植えをし、秋にはおいしい棚田米を味わってみては。参加費は1家族15,000円で、収穫した米1俵(30kg)がもらえるほか、作業終了後に地元の料理を囲んだ親睦会も開催される。稲刈りは10月中旬頃を予定。

問い合わせ先 霧島山麓湧水町観光協会
(湧水町商工観光課内) 0995(74)3111

種子島はバリアフリーをめざす島

⑦第10回種子島サンセット車いすマラソン大会 [西之表市] 7月19日(土)



種子島の美しい夕日を背に、全国各地から参加する車いすマラソンのトップランナーが熱いレースを繰り広げる。第10回記念大会となる今大会は、アジア大会としても盛大に開催。約1,000人のボランティアスタッフや沿道で声援を送る多くの島民らが参加者と一体となり、レースを盛り上げ、温かい交流の輪を広げる。

問い合わせ先 同大会実行委員会 0997(23)5294

8本足の棒上相撲

④加治木町くも合戦 [加治木町] 6月15日(日)



平成8年11月に国の無形民俗文化財として指定された「くも合戦」。その歴史は400年以上もあり、全国でも珍しいイベントである。

大会は大人と少年の部があり、約400匹のコガネグモが参戦。2匹の雌のくもが棒の上で戦い、その頂点を目指す。また、くもの形や姿、色艶などを競う「優秀ぐも審査」などもある。会場は加治木町福祉センター、JR日豊本線加治木駅から徒歩5分。

問い合わせ先 加治木町企画課商工観光係 0995(62)2111 内線363

じよちくおきな
如竹翁の遺徳を偲ぶ

⑥如竹祭 [屋久島町] 6月28日(土)



平成18年4月、県の無形民俗文化財に指定された祭り。奉納される踊りは屋久島の偉人、泊如竹しほりしやうちくが教えたといわれ、七五調や七七調の歌詞(室町小歌)を歌曲に似た古い調べにあわせ、いくつかの古い舞踊りに組み合わせて出来た貴重な民俗芸能である。如竹踊りとしても知られ、泊如竹翁の命日に安房地区の如竹廟で奉納される。

問い合わせ先 安房地区公民館 0997(46)2513